肥満体質の人の様々な症状に用いられる処方（主に漢方薬）

薬価に収載された時系列順　参考:NDB　薬価:最新

	薬価収載	商品名	主成分	効能・効果	用法・用量	薬価
1	1986年10月	ツムラ防風通聖散エキス顆粒	防風通聖散	腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなものの次の諸症:高血圧の随伴症状（どうき、肩こり、のぼせ)、肥満症、むくみ、便秘	通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。	8.5
2	1986年10月	クラシエ防風通聖散エキス錠			通常、成人１日27錠を２～３回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。	2.5
3	1986年10月	クラシエ防風通聖散料エキス細粒			通常、成人１日7.5ｇを２～３回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。	6.8
4	1986年10月	オースギ防風通聖散エキスG			通常､成人１日9 .0ｇを２～３回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。	6.3
5	1986年10月	ツムラ防已黄耆湯エキス顆粒	防已黄耆湯	色白で筋肉軟らかく水ぶとりの体質で疲れやすく、汗が多く、小便不利で下肢に浮腫をきたし、膝関節の腫痛するものの次の諸症：腎炎、ネフローゼ、妊娠腎、陰嚢水腫、肥満症、関節炎、癰、口、筋炎、浮腫、皮膚病、多汗症、月経不順	通常、成人１日7.5Nを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。	9.8
6	1986年10月	クラシエ防已黄耆湯エキス細粒		色白で疲れやすく、汗のかきやすい傾向のある次の諸症：肥満症（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）、関節痛、むくみ	通常、成人１日7.5ｇを２～３回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。	7.5
7	1986年10月	クラシエ防已黄耆湯エキス錠			通常、成人１日18錠を２～３回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。	4.3
8	1986年10月	ツムラ大柴胡湯エキス顆粒	大柴胡湯	比較的体力のある人で、便秘がちで、上腹部が張って苦しく、耳鳴り、肩こりなど伴うものの次の諸症：胆石症、胆のう炎、黄疸、肝機能障害、高血圧症、脳溢血、じんましん、胃酸過多症、急性胃腸カタル、悪心、嘔吐、食欲不振、痔疾、糖尿病、ノイローゼ、不眠症	通常、成人１日7.5Nを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。	22.6
9	1992年8月	サノレックス錠	ﾏｼﾞﾝﾄﾞｰﾙ	あらかじめ適用した食事療法及び運動療法の効果が不十分な高度肥満症（肥満度が＋70%以上又はBMIが35以上）における食事療法及び運動療法の補助	成人には、マジンドールとして0.5mg（1錠）を1日1回昼食前に経口投与する。1日最高投与量はマジンドールとして1.5mg（3錠）までとし、2～3回に分けて食前に経口投与するが、できる限り最小有効量を用いること。投与期間はできる限り短期間とし、3ヵ月を限度とする。なお、1ヵ月以内に効果のみられない場合は投与を中止すること。	189.5
2000年　新しい肥満の判定と肥満症の診断基準						
2005年　メタボリックシンドロームの診断基準						
2006年　肥満症ガイドライン2006						
2011年　肥満症診断基準						
10	2013年9月 **承認されたが未収載**	オブリーン錠120mg	ｾﾁﾘｽﾀｯﾄ	肥満症（ただし、２型糖尿病及び脂質異常症を共に有し、食事療法・運動療法を行ってもBMIが25kg/m2以上の場合に限る）	通常、成人にはセチリスタットとして１回120mgを１日３回毎食直後に経口投与する。	–
脂質吸収を抑制する日本で初めての肥満症治療薬として注目されたが、2013年11月の中医協で、肥満症の薬を保険収載すること自体に疑義が出されるなど慎重な意見が相次いだことから薬価収載が見送られ、未販売のまま終了となった。						
2016年　肥満症ガイドライン2016						